

1. 日 時 平成 29 年 2 月 13 日(月)14:30~15:10

2. 場 所 北杜市立甲陵中・高等学校 立志の間

3. 出席者 運営指導委員 7 名、北杜市教育委員会 3 名、本校関係職員

4. 次 第

(1)開会

(2)北杜市教育委員会 教育長あいさつ

(3)北杜市甲陵高等学校 学校長あいさつ

(4)運営指導委員 紹介・あいさつ

(5)議事

1.課題研究発表会および公開授業について

中学校指導教諭、公開授業担当教諭より説明

2.甲陵 SSH について

SSH 担当教諭、評価担当教諭より説明

3.質疑・応答、指導・助言

委員:中学生が良くなってきている。先輩の研究を引き継いでというものもあり、またその内容の説明もできる。きちんと繋がってきているので、これを文化というか伝統にしていけばよいと思う。

委員:意見が被るが、ポスターの時に生徒に聞くと先輩達がやっていて話を聞いたと言ひ、それが今の発表に繋がっている。リポリジなどを充実させることによって、過去から現代、未来へ繋がりがよりはっきりしていくと思う。すごくいい方向に向かっていると思う。

委員:5 年間で築き上げたものが三つある。一つは地域。地域との連携をさらに深めていることが一つの強みだと思う。二つ目はネットワーク。色々な他の機関の力を教育に活かしている。また、生徒達が英語も含め非常に理数系に対してマインドがオープンになった。三つ目はネクストジェネレーション。中学の生徒がしっかりと育てていることは大きな財産だと思う。この三つをキーワードに第一期で築き上げたものを大事にし、第二期に繋げていけば大きな発展が得られるのではないかな。

委員:発表者の話を聞いて、しっかり自分の考えを持っていると思った。企業に入ってきた新入社員には「自分で考えること」を意識して指導するが、それを既に実践できており非常に頼もしい。公開授業は、考えさせる授業の印象を強く持った。これを深く継続してやっていけば、今課題になっているようなことは簡単に解決できるのではないかな。

委員:固定したメンバーでやっていくチームワークの強さを感じた。地域という話もあったが、今後に向け先生方の力だけでは人材、人的資源としては難しい面があると思う。地域の企業、リタイアして移住してきた人、地域の経験豊かな人等いると思う。今後発展させていくためには地域での色々な協力がキーになるのではないかな。

委員:基本的な確認だが、中学生のプレゼンテーションなら時間を守るとか、ポスターセッションでは課題研究に対する基本的な理論のどこを使って物事を考えるとか、それが指導の大事なところだと感じた。

議長:以上で委員会を閉じるが、ぜひ、堀内先生(教育長)はじめ地域の皆さんにお願いしたい点がある。本校から出している人材はやがて再び地域に帰ってきて活躍する人材になるのだということ、それは地域の将来の後継者、貢献する人材を育てているということである。そういう意味で、これは一学校のプロジェクトではなく、地域として歴史的意味を持っている、そういう認識を持っていただきたい。そういう意識を持って SSH にご支援をいただけるように、そして社会的な環境、学校の活動のできる道作りをぜひ教育委員会の方をお願いしたいと思う。

本校の場合の特徴・良さというのは、県立高校と違い教員の異動がないということ。それゆえに実績と経験が蓄積できる環境となっている。これが非常に早いテンポで SSH の成果が上がってきた要因だと私は思っている。学校がノウハウを蓄積してきていて、そのレベルが上がることで、教育現場にすぐに効果が現れるという、そういう形になっているのだと思う。本校の場合には、地域との密着という形で成果が期待され、また将来に渡って期待できる。そういう意味で、他人ごとではないという風に意識を持っていただければと思う。第二期の合格を楽しみにしながら、第一期の指導委員会として、今日をもって閉じさせていただく。5年間、市教の方には大変お世話になった。お礼もあわせ締めくくる。ありがとうございました。

(6)閉会